

後藤潤/後藤昇 著

脳血管障害の解剖学的診断

岡島康友 (杏林大学医学部リハビリテーション医学)

脳の解剖というと学生時代の解剖実習を思い出す。数十年前のことではあるが、暑さの残る秋口から冬までの間、臓器別に組まれたスケジュールにしたがって4人の学生で1体を解剖させていただいた。献体を前に臓器ごとに解剖学教授の口頭試問があったが、頭部の試問は極寒の冬で、風邪を引いて熱も出ていて最悪のコンディションで迎えたのを覚えている。そのこともあってか、脳の解剖といわれると今でも苦手で、学生時代にもっとよく見ておけばよかったと後悔する。よく言われることではあるが、臨床を知れば知るほど解剖実習の重要性を認識するという。これこそ凡人の脳の構造なのかもしれない。

本書のタイトルには「脳血管障害」、「診断」の言葉が入っているが、著者は解剖学で教鞭をとっておられる教授である。なぜ解剖学者が脳血管障害の本を執筆されたのかと思われる読者も多いであろう。しかし、本を開いてみるとその意図が伝わってくる。そもそも、脳血管障害は目に見えやすい病態である。脳の解剖を苦手とする者にとっては、解剖から入ったほうが理解は深まると考えられてのことでしょうか。実際、著者は「脳血管障害のみならず神経疾患を診断する際は、他臓器に比べて解剖学知識を多く必要とする……」と本書の意図するところを述べている。さらに、脳血管障害診断にはCTやMRIが必須であるが、解剖・病理の三次元分解能は

それら医用画像を大きく上回るものであることを付け加えている。

本書の構成は基本的な脳解剖を序説に記したあと、脳血管障害の病態の章として、脳血管障害の疫学、脳ヘルニア、脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、その他の脳血管障害の順で解説がある。その多くの病態に症例が提示され、経過の概略とともに病巣のカラー写真が載せられていて目を引く。次の章は脳脊髄血管の解剖で、動脈系では内頸・椎骨、皮質・髄質、大脳核・間脳、脳幹・小脳、脈絡叢・眼窩・内耳、脊髄の各動脈、さらに静脈系の概説の後で硬膜静脈洞、脊髄・硬膜の静脈について詳述している。最終章は症例集で脳梗塞、脳内出血、脳動脈瘤、動静脈奇形の各症例が臨床経過とともに詳しく示されている。また、本文の随所に余録として、関連する臨床上の問題や逸話、抄伝として本文に出てくる人物名の人物像が書かれている。深く読めば、非常に専門的な書である一方、脳血管障害の病態や最終章の症例集は斜め読みでも理解できる内容である。

本書は脳血管障害を診療対象とする専門医師のみならず、関係する看護師あるいは理学療法士をはじめとするリハビリテーション関連職種で、脳血管障害を深く勉強されたい方々にお薦めできる書である。(A4判 頁420 定価: 本体25,000円+税 [ISBN 978-4-89590-497-1] 三輪書店刊)

お知らせ

日 時: 2015年5月16日(土) 10:00~14:00
会 場: エル・おおさか (大阪市中央区北浜東3-14)
プログラム: 講演1「基本が解かれば怖くない! 目指せ! 独り立ち!!」講演2「アラーム設定の意味と対処法」講演3「人工呼吸器装着中のケア」展示・実演・実習ブース
*3学会合同呼吸療法認定士資格の取得および更新に必要な点数は取得できません。

第2回 チーム医療 CE 研究会西日本主催 呼吸ケアセミナー人工呼吸器編

受講費: 一般4,000円/会員3,000円(チーム医療CE研究会正会員・兵庫県臨床工学技士会会員)
申し込み方法: ホームページからお申し込みください。
問い合わせ先: チーム医療CE研究会西日本事務局
〒554-0012 大阪府大阪市此花区西九条5-4-8
大阪明館病院臨床工学科
E-mail: ce-west@maia.eonet.ne.jp